

○総合計画－達成指標分析シート

基本目標	豊かな自然と調和する共生のまち（環境）
施策の柱	環境保護・保全活動

目指す姿

- 市民・事業者・行政が一体となり、環境保護・保全活動に取り組むための「情報発信」や「活動の実践」のための体制が整備されています。
- 次代を担う子どもたちに、環境保護・保全、生物多様性について学ぶ場が提供され、子どもを軸に家族が環境について考えるきっかけを持ち、それが実際の活動につながっています。

●事業の達成指標

項 目 名	現 状 値	H27	H28	H29	H30	H31	目 標 値	担 当 課
（主）日常生活において、環境問題を意識している市民の割合	78.4%	－	79.3%	－		－	UP	環境政策課
（客）環境教室などへの参加者数（年間）	2,800人	2,732人					3,000人	環境政策課

●施策の方向性①環境保護・保全活動の推進

事業番号	事 業 名	担当課評価	現状分析・課題・対策	担 当 課
31101	環境保護・保全推進事業	目標値に対し、順調に進んでいる	○6月の環境月間には、環境美化監視員によるパトロール、まちピカ応援隊による環境保全活動、広報かみがはらによる啓発などを実施しており、住民の環境保護・保全活動への意識が高まりつつある。 ○6月の第3日曜日には、環境美化監視員やまちピカ応援隊、清掃ボランティア団体が一斉に活動する「環境美化活動の日」を設け、平成27年は1,287人の参加があった。昨年度よりも参加者が増えたことから、住民の環境への意識が高まりが感じられた。 ○今後も、この「環境美化活動の日」に多くの市民ボランティアや各種団体が環境美化活動が実施できるよう、継続して活動を支援していく。	環境政策課

●施策の方向性②環境教育の充実

事業番号	事業名	担当課評価	現状分析・課題・対策	担当課
31201	環境学習事業	目標値に対し、順調に進んでいる	○環境保護・保全に対する意識の向上を図るために、次世代を担う子どもたちに対し、環境や自然の大切さを、遊びや学びを通して学習する機会を創出している。 ○平成26年度と比較し、環境教室への参加者を10パーセント以上増加させることができたため、事業の目的は順調に達成できている。 ○特に環境教室については、回数を重ねるごとに参加希望者が増加してきている状況である。市内全ての小学生を参加対象としていることもあり、子どもたちに対し、自然環境の保全や地球温暖化、生物多様性などを題材とする様々な環境イベントを実施することで、環境に対する意識の向上を図っていく。	環境政策課

○総合計画－達成指標分析シート

基本目標	豊かな自然と調和する共生のまち（環境）
施策の柱	循環型社会

目指す姿

- リデュース・リユース・リサイクル（３Ｒ）をこころがけ、ごみを減らす暮らしを実践する循環型社会が実現されています。
- リユースやリサイクルできないごみが継続的・安定的に適正処理され、快適な市民生活が維持されています。

●事業の達成指標

項 目 名	現 状 値	H27	H28	H29	H30	H31	目 標 値	担 当 課
（主）ごみを確実に分別し、排出している市民の割合	93.7%	－	93.9%	－		－	UP	環境政策課
（客）リサイクル率（年間）	29.9%	30.2%					30.0%	環境政策課
（客）一人一日当たりのごみ排出量	957 g	963 g					890 g	環境政策課

●施策の方向性①循環型社会の形成

事業番号	事業名	担当課評価	現状分析・課題・対策	担当課
32101	リサイクル・再資源化事業	目標値に対し、順調に進んでいる	○廃棄物の減量と資源の有効活用を図るため、緑ごみや小型家電、古紙回収など、さまざまな事業を展開しリサイクル率を上げる取り組みを行っている。 ○平成27年度には、川島地区をモデル地区として、雑がみ回収袋を試行的に配布し、啓発活動を実施した。アンケート調査により事業効果を検証した結果、可燃ごみの回収量が減少しないこと、アンケートの回答率が1割程度であったことなど、雑がみ回収の対する認知度が低いことが分かった。 ○今後は、広報紙だけでなく、自治会回覧、各種イベント、市ウェブサイトなどで、雑がみ回収を周知していき、市民に浸透した時点で、全市的に雑がみ回収袋を配布するなど、雑がみの回収に力を入れていきたい。	環境政策課

●施策の方向性②適正な廃棄物の処理

事業番号	事業名	担当課評価	現状分析・課題・対策	担当課
32201	一般廃棄物収集運搬事業	目標値に対し、順調に進んでいる	○家庭から排出される可燃ごみや不燃ごみを収集し、ごみ処理施設に運搬する事業である。 ○分別ルールが守られていないごみについては、啓発のため、回収せずごみステーションに残しているが、可燃ごみについては、衛生上の観点から、その日の内に回収するよう努めている。 ○平成27年度には、「ごみ出しガイドブック」の改訂版を作成し、全世帯に配布した。また、市ウェブサイトにおいても「ごみ出しガイドブック」を掲載し、「ごみの品目別分別一覧」についても、問い合わせの多い内容を拡充していくことで、分別ルールの周知徹底を図っていく。	環境政策課
32202	北清掃センター施設維持補修事業	目標値に対し、順調に進んでいない	○ごみ焼却施設の当該施設を適切に維持するために、法令に基づく点検管理と保守運営を図り、長期にわたり安定して操業できるよう計画的な機器類の修繕を行うものである。 ○施設稼働から15年が経過し、今後の施設の運営方針を検討する時期に来ている。ライフサイクルコストを考慮すると施設の長寿命化を図る必要があるが、そのためには、基幹的設備の大幅な更新が必要となり、多大な費用が必要となる。 ○そこで、長寿命化を図るために必要となる機器類の更新計画を立案し、必要経費を把握した上で、円滑な事業の推進に向けた延命化方策の検討を行う。また、事業実施に先立ち、循環型社会推進計画を策定し、環境省補助による財源確保に努める。	北清掃センター

○総合計画－達成指標分析シート

基本目標	豊かな自然と調和する共生のまち（環境）
施策の柱	生活環境

目指す姿

- 地球温暖化に対し、市民、事業者、行政が一体となり、日々の生活や事業活動において、温室効果ガスの削減に向けて取り組んでいます。
- 本市唯一の水道水源である地下水が安定的に確保され、水質も保全されています。
- 生活排水による河川などへの汚濁負荷が軽減され、快適で衛生的な生活環境が保たれています。
- 特定外来生物が駆除され、地域の生態系が保たれています。

●事業の達成指標

項 目 名	現 状 値	H27	H28	H29	H30	H31	目 標 値	担 当 課
（主）家庭でできるＣＯ２削減に積極的に取り組んでいる市民の割合	67.5%	－	68.2%	－		－	UP	環境政策課
（客）汚水衛生処理率	84.4%	87.6%					91.1%	環境政策課

●施策の方向性①地球温暖化防止対策の推進

事業番号	事 業 名	担当課評価	現状分析・課題・対策	担 当 課
33101	地球温暖化防止推進事業	目標値に対し、順調に進んでいない	○異常気象の原因とされる温室効果ガスの削減のため、環境月間でのパネル展示や広報紙、イベント等を利用して啓発活動を実施している。 ○家庭でできるＣＯ２削減に積極的に取り組んでいる市民の割合は上昇しているが、実態を把握し、具体的な対策を検討することは難しい。 ○「総合計画市民意識調査」及び平成２８年度に実施する「第２次環境基本計画策定のためのアンケート」により、現状を把握し、現在実施している啓発活動の見直しへ反映させていきたい。	環境政策課

●施策の方向性②地下水の保全・管理

事業番号	事業名	担当課評価	現状分析・課題・対策	担当課
33201	地下水保全事業	目標値に対し、順調に進んでいる	○本市の水道原水は地下水であるため、地下水の水位と水質を適正に監視し、継続的に保全を図っている。 ○地下水の水質を年2回、97箇所測定し硝酸性窒素汚染区域のが拡大していないことを把握する。また、水位についても年2回、126箇所測定により地下水の水位を維持し、水量の変化を観察している。 ○地下水の涵養源対策としては、「砂利採取事業等指導要綱」に基づき砂利採取事業の規制区域を設けており、引き続き、地下水の異常をいち早く発見し、適切な対応に努める。	環境政策課

●施策の方向性③生活排水対策の推進

事業番号	事業名	担当課評価	現状分析・課題・対策	担当課
33301	水質汚濁防止推進事業	目標値に対し、順調に進んでいる	○生活排水による河川の水質汚濁を防止し、生活環境の保全を図るため、合併浄化槽の設置費用の一部助成を行い、合併浄化槽の設置を進めている。 ○下水道の整備に伴い、浄化槽補助対象区域が減少し、補助件数は減少傾向となっている。単独浄化槽撤去費用の補助は、当初予算28件に対し、4件にとどまった。広報紙でのPRを行ったが、成果には繋がっていないと感じている。 ○浄化槽補助金制度について、広報によるPR以外にも、制度対象区域となる自治会の回覧を利用し、効果的に事業のPRを進めていきたい。	環境政策課
33302	し尿処理施設維持補修事業	目標値に対し、順調に進んでいる	○老朽化した施設を維持し安定的に稼働させるために効率的な維持補修を進めている。 ○平成27年度は計画した7つの維持補修工事以外にも、新たに発生した故障等に対応するため、さらに4つの工事を実施した。 ○今後も施設の長寿命化を図るために、確実な定期点検の実施と老朽化した設備の改修計画に沿った機器の回収により、適正な設備管理に努める。また、施設機能検査結果等を参考に、設備ごとの修繕計画の立案と着実な実施により稼働の安定性を高めたい。	クリーンセンター

33303	し尿処理施設改修事業	目標値に対し、順調に進んでいる	○し尿の最終処理体系を見直したことで、簡素な処理システムへの再構築が可能となった。新たな処理方法にあわせた設備機器へ更新を図り、長寿命化に向けて改修する。 ○当初予定していた焼却処理施設の廃止のほか、処理フローの精査により、更なる簡素化が可能となった。 ○今後の管理運営経費の削減と将来的なライフサイクルコストを考慮し、し尿性状と最適な処理施設の構築を検討するとともに、長寿命化を図っていく。	クリーンセンター
-------	------------	-----------------	---	----------

●施策の方向性④特定外来生物の駆除と生物多様性の保全

事業番号	事業名	担当課評価	現状分析・課題・対策	担当課
33401	特定外来生物対策事業	目標値に対し、順調に進んでいる	○特定外来生物に指定されているアルゼンチンアリについて、自治会と協働して防除活動を行っている。 ○鵜沼東部地区については、アルゼンチンアリの個体数の減少を図ることはできたが、生息範囲は少しずつ拡大している。緑苑地区については、県の森林環境基金事業を活用し、アリの根絶を目指して防除活動に取り組んでいる。 ○生息範囲の拡大防止のために、木曽川上流河川事務所などの関係機関と引き続き連携するとともに、今後は、自治会代表者が参加する協議会を設置し、防除の方法や自治会との連絡の一本化を図るなど、自治会との協働により拡大防止に努めていく。	環境政策課